

## 紙の博物館 平成 29 (2017) 年度事業報告

平成 29 年度は初めて目標入館者数を設定し、年間 35,000 人を目標設定しました。これに邁進すべく企画展の充実や新しいイベントの開催を企画し、上半期は予想以上の効果が認められ、対前年 116% となりましたが、一転、下半期は 10 月から天候不順に見舞われ、2 月まで対前年 84% と大きく割れてしまいました。しかし、3 月に記録的な暖かさのため桜の開花が早まったことに加え満開中も好天、温暖にも恵まれ下期トータルでは 98.6% まで回復し、年間で 37,244 名対前年 108% という結果になりました。この数字は飛鳥山に移転されてから 3 番目の記録（1 番は新館開館年、2 番は 60 周年）となりました。

設備・投資面では一部工事を延期していたロスナイ換気扇の更新のほか、70 周年に向けた工事の一環として Web リニューアル、LED 照明への変更、AV 機器の更新等を行いました。

今年度の主要な事業活動は次の通りです。

### I. 紙に関する資料の蒐集、保存、調査研究、展示

#### 1. 今年度開催した企画展

(1) 「紙布～桜井貞子作品展～」	3/18～6/4
(2) 「ORIGAMI～“神宿る手”吉澤章のまなざし～」	6/18～9/4
(3) 「紙で旅するニッポン～四国編～」	9/16～H30/3/4
(4) 「木版画の美 その2～独特の美しさと技法～」	H30/3/17～6/3

#### 2. 一般公衆への説明、助言、指導と図書室利用

紙に関する知識が豊富なボランティアを、毎日 2 名配置し、来館者に和紙や洋紙についての正しい知識を深めていただき、紙に対して親しみを持って頂くよう努めております。今年は 3 名のボランティアを増員し、従来の 2 名の組み合わせの変更を行い、年 2 回ボランティア会議を開催し、説明内容の統一を図ったり、来館者からの質問事例を紹介するなど、相互に切磋琢磨しつつ、併せて来館者の意向を吸収して、一層わかりやすい解説と理解の向上を目指しております。今年度も、桜開花の時期にボランティアを増員し、3～4 名態勢で来館者に対応致しました。また、一般の方から「紙」に関する質問や図書についての問い合わせが、電話やメールで寄せられますが、学芸員、図書室司書、職員、ボランティアが手分けして回答し、丁寧に対応しております。

当館図書室は「紙」の専門博物館図書室としてユニークな存在です。今年度は1,176人が調査研究、論文作成等で利用されたり、図書室入り口前の絵本や子供向け書物にも、多くのファミリーの利用がありました。

平成16年度から参加しているレファレンス協同データベースには、現在まで82件のデータを登録しており、レファレンス事例の被参照数（アクセス数）は48,391件となり、前年度の44,067件から大幅な伸びを見せています。

全国規模の図書館総合目録NACSISにも、当館受入雑誌のすべてと図書データ約2,000点を登録しており、ILL（図書館相互に図書や論文などを利用しあうためのシステム）を通じて、全国の図書館からの複写申込みにも対応しております。今年度は19件の複写依頼を受け付けました。（前年度54件）

国立国会図書館「デジタル化資料送信サービス」は、絶版等で入手困難な資料約131万点が、許可を受けた図書館で閲覧できるサービスで、今年は閲覧件数48回、複写32回となっています。これら様々なサービスを含めさらなる図書室の利用を促進するために、一層の向上を図りたいと考えています。

### 3. 日本博物館協会及び民間博物館協議会に出席

今年度は6月28日に東京都博物館協議会、7月12日に全国博物館館長会議、11月29日～12月1日は全国博物館大会に出席し、博物館運営の研究活動に取り組む一方、主に首都圏にある企業ミュージアム（通称COMIC）にも平成20年発足当時から参加し、それぞれの館の活動状況、問題点などの情報交換も行っております。また平成30年度の全国博物館大会が東京で開催されるために、2月22日に開催された東京都博物館協会の理事会にて、当館は大会委員、大会実行委員に推举され受諾しております。（任期は1年）

## II. 紙に関する講演会、講習会、実演会の開催

### 1. 各講演会

テーマ	会合名	講師	場所	開催日
「パピルスと和紙」	かみはく友の会	学芸部長	当館講堂	6/9
「紙で旅するニッポン」で各地を回って」	かみはく友の会	小嶋、平野学芸員	当館講堂	11/9
「紙・木で目指す循環型社会」飛鳥山1日大学		学芸部長	飛鳥山博物館講堂	H30/2/25

## 2. 講習会及び実演会

(講演会、実演会名)	(講師)	(開催日)
(1) 製糸づくり体験会	桜井貞子、妹尾直子両氏	4/15
(2) 新聞紙でカブトをつくろう	当館学芸員	5/5
(3) 紙布制作実演会	桜井貞子、妹尾直子両氏	5/13
(4) 歴史発見！街めぐり	当館学芸員	5/27
(5) 創作折り紙教室	吉澤喜代、菊川多美子両氏	7/1
(6) 野菜から紙を作ろう	当館学芸員	7/27
(7) 子供と楽しむ折り紙教室	吉澤喜代、菊川多美子両氏	8/3
(8) 3館まとめてクイズラリー	当館学芸員	8/5
(9) 牛乳パック工作	当館学芸員	8/10
(10) 自由研究「紙を知ろう」	当館学芸員	8/17
(11) GO！ゴー！ミュージアム	当館学芸員	10/7～10/8
(12) 浮世絵手摺り実演会	沼辺伸吉氏	10/9
(13) 小川和紙手漉き実演会	谷野裕子氏	11/3
(14) 和紙づくりを楽しもう	当館学芸員	11/23
(15) 漂く・刷る・名刺【紙漉き】	当館学芸員	2/10～2/11
印刷博物館との合同ワークショップ		
(16) 飛鳥山3つの博物館合同イベント		
飛鳥山1日大学	3館学芸員	2/25

学芸員による企画展の展示解説、ミュージアムトーク(12/2,H30/1/27)も実施しました。また、竹紙を使った「たんざくに願いを書こう」では、エントランスの壁に笹を想定した網をかけ、書いて頂いたたんざくを引っ掛けていくイベントや、夏休みの8日間図書館を開放し、夏休み自由研究フェアー相談会を開催し、7、8月多くの入館者増につながりました。

## 3. 「紙すき教室」の開催

今年度も紙すき教室は好評で、毎週土・日に開催している定例の紙すき教室は、99日 7,359人が体験しました。今年度は土・日以外に、祝日の2日間(海の日、敬老の日)を試験的に紙すきを行い、海の日にはパルプを浅葱色に着色し、海らしい図柄も作成しました。また、敬老の日には竹パルプを使用して“おじいちゃん、おばあちゃんにはがきを送ろう”キャンペーンを行うなど、工夫を凝らしました。クリスマス近くの土日では、はがきではなくカード形式(紙の厚みを厚くして)にし、カラーフラッシュを付けてクリスマスバージョンに仕立てました。出張紙すきでは、8月3日～5日にかけて製

紙連合会が開催した「PAPER EXPO 2017」には、延べ 615 人の方が紙すき体験に参加いただきました。恒例の神田ブックフェスティバルでの紙すき教室も、今回は 11 月 3 日～5 日の 3 日間実施、計 501 名の参加でした。また 10 月の第 34 回北区区民まつり(10/7,8)の無料入館日の紙すき教室を、今年度も館内 1 階講堂で行いました。計 403 名の方々に楽しんでもらいました。

これらの紙すき教室では、紙すき体験の前に 10～15 分程度かけて、「紙のリサイクルと森のリサイクル」、「紙の出来る原理」、「和紙と洋紙の違い」など、子供たちにも解り易く説明し理解していただくように努めています。

以上のとおり、“定例の紙すき”、“イベント紙すき”及びウィークデーに団体申込に応じて実施している“臨時紙すき”を合わせますと、153 日 10,014 人となりました(対前年度 849 人増)。当館の体験型の人気事業として定着はもとより、入館動機の大きな要因の一つにも成長していると考えます。

#### 4. 学校及び諸団体の教育活動に対する協力、援助

8 年前から、小中学校の教師の方からの予約及び引率を条件に、生徒 10 人以上の団体入館料を無料としております。

今年度も区内外の中学生の「職場体験」受入れも実施しており、今年度は北区立堀船、赤羽岩淵、明桜各中学校の生徒を受け入れ、職場体験を実施しました。引続き、次年度以降も実施する予定です。また、大学生の博物館実習も受け入れており、今年度も 3 名の学生を受け入れました。

一方、社会人向けの教育として、新入社員教育を実施しており、今年度は 35 社 487 人が受講されました。紙に関する講義、ビデオ上映、展示室の説明など 2 時間余の予定で行っています。

#### 5. 「かみはく友の会」の活動

今年度の主要な活動としては、6 月 24 日の「友の会の集い」において、当館の前学芸部長の辻本直彦氏の講演で「和紙とパピルス」、さらに 12 月 9 日に「“紙で旅するニッポン”で各地を巡って」と題して、当館の小嶋、平野両学芸員による講演を行いました。講演後は場所を変えて、久しぶりに懇親会(忘年会)を行い、大いに盛り上りました。

### III. 機関誌及び紙に関する書籍類の出版

#### 1. 機関誌「百万塔」の発行

今年度「百万塔」は、157, 158, 159号を発行しました。

本誌は、紙に関する数少ない専門誌として、高い評価を頂いており、昭和30年創刊から63年間継続して発行しており、大変貴重な専門誌であると自負しております。そしてさらに幅広い層の方々にも楽しんで読んで頂ける様、充実した紙面作りを心掛けたいと思っています。発行部数は毎号約2,000部発行しております。

#### 2. 広報紙「紙博だより」の発行

今年度は、70,71,72,73号を発行、その時々の企画展の内容の紹介、関連イベントとして開催する講演会、実演会等の案内、収蔵資料の案内等を掲載しております。発行部数は4,000部～6,000部で、来館者には勿論、他の博物館、美術館、図書館、文化施設、北区公民館等へ配布して、当館のPRに努めています。

### IV. 売店事業

来館者に紙に関する知識や関心を深めて頂くために、ミュージアムショップ事業を行っています。当館が出版した書籍、各地特産の和紙を使った便箋、千代紙、当館収蔵品の絵葉書、ハガキ作りキット「紙すきくん」、企画展関係の紙製品等を扱っております。様々な紙製品を通して、紙の利便性・魅力を実感していただくよう努めています。今年度はさらに新商品を加え、来館者のニーズにあった商品を揃えました。おかげで入館者増も手伝い対前年より大きく売り上げを伸ばしました。

今年度売上金額 6,741千円 (対前年 1,027千円増)

### V. 主要修繕、投資工事

・ロスナイ換気扇更新	3, 186千円 (11月)
・Webリニューアル	3, 110千円 (H30年/3月)
・LED照明 (展示箇所を除く)	2, 678千円 (12月)
・AV機器更新	2, 376千円 (H30年/2月)
・パソコンネットワーク更新	1, 458千円 (12月)
・大型プリンター、PC購入	1, 200千円 (H30年/3月)
・Wi-Fiネットワーク更新	918千円 (H30年/3月)

以上